

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

昨日（7月4日）、十勝岳北西山麓で現地調査を実施した結果、大正火口東壁の高温領域は7月1日の現地調査時に比べ縮小しているのを確認しました。また、6月30日夜から観測されている大正火口付近が高感度カメラで明るく見える領域も小さくなっており、温度の高まりは次第に収まりつつあると考えられます。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、大正火口や62-2火口付近には近づかないよう注意して下さい。

<噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）が継続>

○ 活動概況

・ 表面現象の状況（図1～4）

昨日（7月4日）、十勝岳北西山麓で（火口から3.5kmの富良野川西岸から）、赤外熱映像装置¹⁾による地表面温度分布の観測を実施しました。その結果、7月1日の現地調査時に比べ大正火口東壁の高温領域が縮小し、温度が低下しているのを確認しました。

また、6月30日夜から、大正火口付近で夜間に高感度カメラで明るく見える現象が観測されていますが、明るく見える領域は次第に小さくなっています。

二酸化硫黄の放出量の観測は雲のため実施できませんでしたが、明るく見える現象が見られた6月30日～7月1日と比較して、火口温度が低下していることや噴気量が少なくなっていることから、大正火口から噴出する火山ガスの量は、少なくなっている可能性があります。

噴出した火山ガスは、2日頃まで十勝岳の北西斜面に流れていましたが、3日頃から風向が西風に変化し東方（十勝地方側）に流れています。

なお、62-2火口の噴煙の状況に特段の変化はありません。

1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震、微動の発生状況及び地殻変動の状況

火山性地震は少なく、火山性微動は観測されていません。傾斜計及びGPS連続観測による地殻変動に特段の変化はありません。

○ 活動評価

十勝岳の地震活動及び噴煙活動は概ね静穏に経過していますが、2006年からみられている62-2火口直下浅部の膨張は継続していますので、引き続き火山活動の推移に注意して下さい。



図 1 十勝岳 現地調査実施地点及び遠望カメラ位置図
・赤矢印は撮影方向

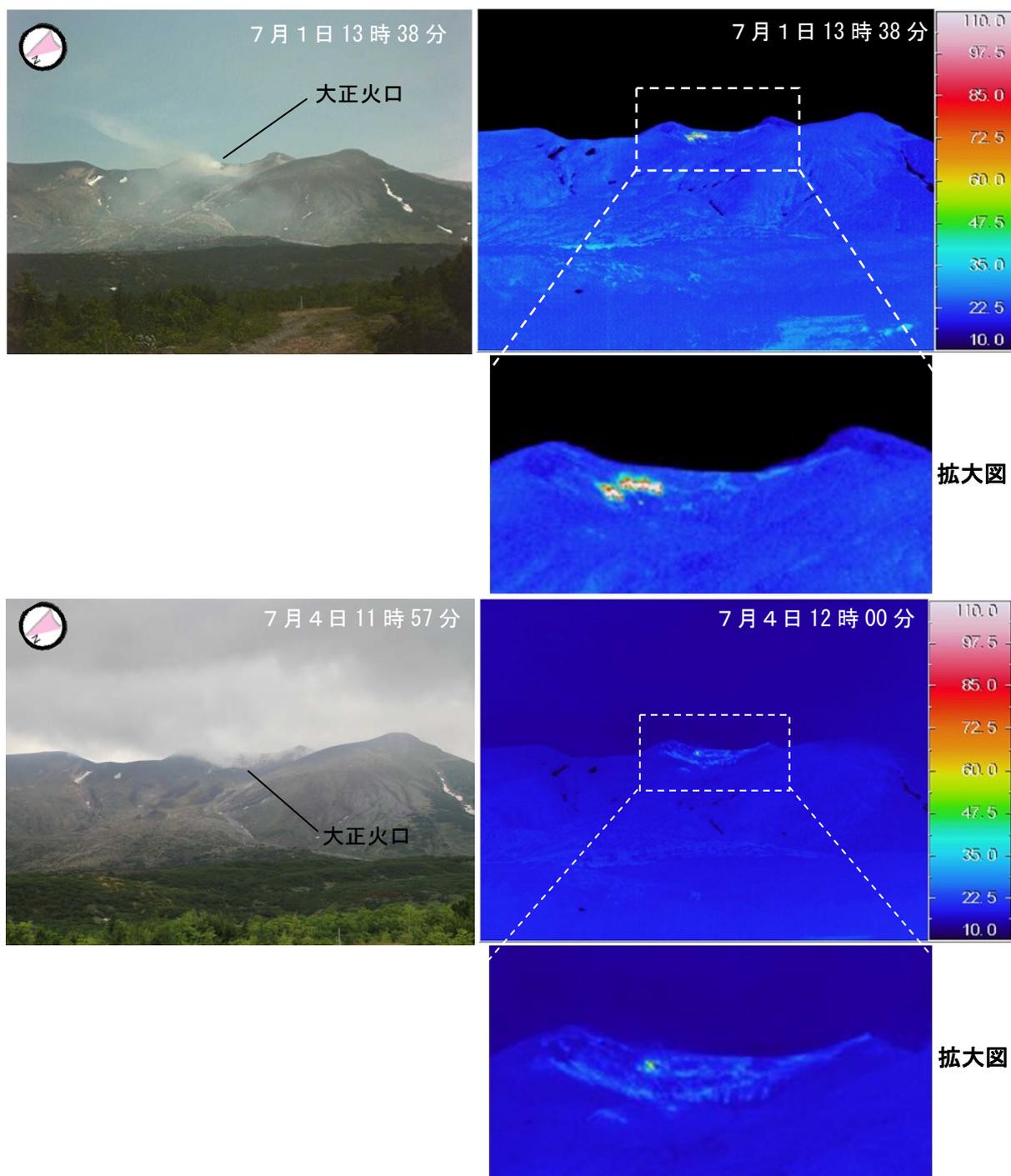


図 2 十勝岳 赤外熱映像装置¹⁾による大正火口の地表面温度分布 (図 1 の①より撮影)



図3 十勝岳 大正火口付近が夜間に高感度カメラで明るく見える現象の状況
(図1の②より撮影、北海道開発局望岳台遠望カメラ)



図4 十勝岳 大正火口の火山ガス及び噴気の状態
(図1の②より撮影、北海道開発局望岳台遠望カメラ)